研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
B-141	B-180	21-419	厚生会　道ノ尾病院　福嶋翔 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター　松下幸生

題名（原題／訳）

Naltrexone ameliorates functional network abnormalities in alcohol-dependent individuals

ナルトレキソンは、アルコール依存症患者における機能的ネットワーク異常を改善する

執筆者

Morris LS, Baek K, Tait R, Elliott R, Ersche KD, Flechais R, McGonigle J, Murphy A, Nestor LJ, Orban C, Passetti F, Paterson LM, Rabiner I, Reed L, Smith D, Suckling J, Taylor EM, Bullmore ET, Lingford-Hughes AR, Deakin B, Nutt DJ, Sahakian BJ, Robbins TW, Voon V; ICCAM Consortium.

掲載誌

Addict Biol. 2018 Jan;23(1):425-436. doi: 10.1111/adb.12503. Epub 2017 Feb 28.

キーワード	PMID
アディクション、アルコール、コカイン、ナルトレキソン、アヘン、物質使用	28247526

要　旨

オピオイド受容体拮抗薬であるナルトレキソンは、アルコールおよびアヘン依存症における再発予防薬として一般的に用いられているが、その有効性と臨床的有用性を支えるメカニズムは十分に明らかにされていない。本研究では、アルコール依存症 21 名と多剤併用依存症 36 名を対象に、物質依存に関連する神経ネットワークの変化に対するナルトレキソン 50mg の効果をプラセボと比較して検討した。安静時機能的磁気共鳴画像データのグラフ理論的およびネットワークベースの統計解析により、アルコール依存症患者は多剤併用依存症患者および健常者と比較して、分散型ネットワークの機能的結合性が低下していることが明らかとなった。また、両患者群とも局所的な効率性が高く、クラスター化したネットワークや分離したネットワークの位相や情報処理が観察された。ナルトレキソンは、アルコール依存症患者における神経ネットワークの局所効率の上昇を正常化し、健常ボランティアと同じレベルにまで改善した。ナルトレキソンは、禁酒している多剤併用者における局所効率には影響を与えなかった。このことは、局所効率はアルコール使用障害における潜在的な病前危険因子であり、ナルトレキソンによって改善される可能性があることを示唆している。これらの知見は、ナルトレキソンの臨床効果の 1 つの可能なメカニズム、すなわち、破壊されたネットワークト位相の改善を示唆するものである。